

マルコによる福音書 5 章 11-20 節 「主があなたを憐れむ」

主イエスの一行は、湖の向こう岸にあるゲラサ人の地方に着きました。この土地は、異邦人の住む土地であり、誰もが進んで行きたいような場所ではありません。けれども、主イエスは進んで行かれました。そのような場所で、主イエスは一人の人と出会いました。「汚れた霊に取りつかれた人」です。この人は 3 節から 5 節にありますように、墓場に住み、鎖や足枷を引きちぎり、夜昼叫びまわり、自分自身を傷つけていたのです。人との交わりを断たせ、人から恐れられ、自らを傷つけようとする力。この異邦の地で主イエスを最初に迎えた人は、このような人物でした。この男は主イエスが神の子であることを見破ったのです。7 節「いと高き神の子、かまわないでくれ」。けれども主イエスは、この人を救ったのです。この「いと高き神の子」である主イエスとの出会いによって、この男は正気になったのです。主イエスにおいて、そのような神の力が働いているのです。

そして、今日の箇所。その汚れた霊が豚の中に入り、溺れ死んだというのです。なぜこんなことに、と思いますが、私たちがここで見るべき事柄は、豚ではなく、主イエスと汚れた霊に支配されていた男との出会いなのです。なぜなら、それは 19 節「主が憐れまれた出来事」だからです。16 節にあるように、人々の関心はこの男が主イエスとの出会いによって大きく変えられたということよりも、財産である豚が犠牲になったという自分の損失に目を向けてしまったのです。人々は自分の損得に関することしか考えることが出来なかったのです。この汚れた霊に取りつかれた男は、主イエスの足元で正気に返りました。そして主イエスに対して自分達の所から出て行って欲しいと言い出した(17 節)のです。これ以上面倒な事に巻き込まれたくないという思いがあったのでしょう。

主イエスは再び舟に乗り込み、その地を去ろうとしますが、男が引き止めます。18 節「悪霊に取りつかれていた人が、一緒に行きたいと願った」のです。しかし、主イエスはそれをお許しにはなりません。「自分の家に帰りなさい。そして身内の人に、主があなたを憐れみ、あなたにしてくださったことをことごとく知らせなさい。(19 節)」これが主の答えでした。新しく生まれ変わった男に、新しい使命をお与えになったのであります。それは自分の家に帰る事。自分の生きているその生活の場に戻る事。そしてその生活の場で、主の憐れみを知らせなさいという事です。この男は死んでいたも同然でありました。しかし、主イエスが交わりを取り戻して下さったのです。主イエスによって、この男は新しく生きるようになったのです。主イエス・キリストとの出会いによって、主の憐れみによって、人生が変えられたのです。「キリエ・エレイソン」(主よ、我らを憐れみ給え)とは、今も多くの人の祈りの言葉です。そして、主の憐れみを知らされた者は、その憐れみのうちに新しい使命を与えられていくのです。特別な所へ行って、特別な事をするという事が命じられているわけではありません。あなたの家に帰り、これまであなたが生きてきたその生活の中で、主の憐れみに生きる者である事。主の憐れみによって生かされている者である事を、その存在を通して語りなさいというのです。皆さんも、今日家に帰り、主の憐れみを語り伝えなさいとの主の御言葉です。